

災害対応特殊救急自動車 仕様書

(高規格救急自動車)
ベース車両

枚方東消防署 北山出張所
寝屋川消防署 神田出張所

北山救急1、神田救急1
令和8年度
枚方寝屋川消防組合

第1章 総則

- 1 この仕様書は、枚方寝屋川消防組合（以下「組合」という。）が発注する高規格救急自動車（以下「救急車」という。）の製作並びにこれに関する工事一切に適用する。
- 2 救急車の製作は、この仕様書及び承認図によるもののほか救急車の製作は、本仕様書及び承認図によるもののほか以下の法令、保安基準、各種要綱に適合すること。
 - (1) 道路運送車両法（昭和 26 年法律第 185 号）
 - (2) 道路運送車両の保安基準（昭和 26 年運輸省令第 67 号）
 - (3) 緊急消防援助隊設備整備費補助金交付要綱（令和 6 年 3 月 27 日消防消第 82 号）
「災害対応特殊救急自動車の規格」・「高度救命処置用資機材」の規格に適合すること。
 - (4) 救急隊員の行う応急処置等の基準（昭和 53 年消防庁告示第 2 号）に定める応急処置を行うために必要な構造及び設備を有すること。
- 3 契約後に生じた疑義は、すべて組合の解釈に従うものとし、製作に伴う諸種の理由で本仕様書に変更を必要とするとき、或いは不審の生じたときは直ちに当組合に連絡の上、その指示を受けること。
- 4 製作にあたっては、次の点に留意すること。
 - (1) 軽量、頑丈、優美であること。
 - (2) 取り付けが簡単であること。
 - (3) 製作、艤装全般にわたり厳重検査を実施すること。
- 5 製作に先立ち、次の図書を担当課と調整のうえ速やかに提出し、承認を受けるとともに細部にわたり十分な打ち合わせを行って、組合の指示を受けるものとする。
 - (1) 製作工程表
 - (2) 承認図（承認図書・A4 ファイル綴り）2 部
 - ア 艤装図
 - イ 内部配置構成図
 - ウ 電気配線図
 - エ その他組合が指示するもの
- 6 検査
本仕様書、承認図等により当組合職員立合の上、次の検査を行う。
 - (1) 検査は中間検査、完成検査及び納入検査とする。
 - (2) 検査は製作工程表に基づき、検査を受けられる状態で日程を組むこと
 - (3) 完成日程は事前に当組合に連絡し調整を図ること。
 - (4) 完成検査は納入期限までに補修、調整ができるように余裕をもつこと。
- 7 設計、製作、材料、部品等について、特許その他権利上の問題が起こった時は、製作者がその責任を負うこと。
- 8 完成車は、近畿運輸局の検査に合格の上、納入するものとする。なお、車検証の車両総重量と運用時の実総重量に差異が生じないような方法により登録を行うこと。

- 9 艤装の進行に伴い諸種の理由により本仕様書に変更を必要とするとき、或いは疑義が生じたときは、直ちに当組合に連絡のうえ指示に従うものとする。
- 10 本仕様書に記載がない部分等については、当組合と協議の上決定する。
- 11 完成納入後、設計不良及び材質不良に起因する不都合箇所が発生した場合は無償にて交換、修理を行うこと。
- 12 保証期間は1年とする。但し、メーカーの保証期間がそれ以上の場合は、その期限までとする。
- 13 納入時に次の書類を提出する。
- (1) 自動車検査証写し2部
 - (2) 自動車損害賠償責任保険証写し2部
 - (3) 整備要領書（エンジン・シャシー）各1部
 - (4) 取り扱い説明書2部
 - (5) 斜め前方左右及び正面・後面・両側面とリヤドアを開放し内部が写った写真及びデータ各3部
 - (6) リサイクル券写し2部
 - (7) 保管場所標章交付申請書（車庫証明）写し2部
- 14 納入期限については、令和9年3月31日とする。

第2章 仕様

1 車種

高規格救急自動車タイプ（国産車 メーカー公表標準取付品装備）で下記のとおりとする。

- (1) メーカー公表最新型とする。
- (2) オートマチック・トランスミッションとする。
- (3) ABS 装置の装備車とする。
- (4) 運転席及び助手席に SRS エアバック装備車とする。

2 主要諸元

- (1) 車両寸法は下記のとおりとする。（mm）ただし、改造前の車両の寸法が下記の範囲内であれば可とする。

ア 全長	5,700 以下
イ 全幅	1,950 以下
ウ 全高	2,550 以下
エ ホイルベース	3,300 以下
- (2) 定員は7名以上とする。
- (3) エンジンがガソリン・エンジン（低排出ガス仕様）とする。
- (4) 排気量は3,000 cc 以下とする。
- (5) 四輪駆動（4WD）とする。

3 車両装備品（補助対象外）

- (1) 冷暖房装置（メーカー純正品） 1 式
- (2) 助手席アウトサイドミラー 1 式
- (3) サイドバイザー 1 式
- (4) 盗難防止ロック付ナンバーフレーム前後 1 式
- (5) マッドガード（フロント及びリヤ） 1 式
- (6) シートベルト全席 1 式
- (7) ラジアルタイヤ（スペアタイヤ含む） 1 台分 1 式
- (8) ホイール付きスタッドレスタイヤ（スペアタイヤ含む） 1 台分 1 式
- (9) リモコン式集中ドアロック（電磁式発信機 3 個を含む） 1 式
- (10) イージークローザー（バックドア及びスライドドア） 1 式
- (11) 純正バックガイドモニター付きナビゲーション（地図更新タイプ） 1 式
- ※ 車両後面に後方の状況を投影できるバックアイカメラ又はパノラミックビューモニターを取り付け、車両後退時にカーナビゲーション装置のモニター等に映像を映せること。（全国最新地図データ入）
- (12) アンダーミラー（フロント） 1 式
- (13) インバーター（300W 以上） 1 式
- (14) フォグランプ（純正 LED 球） 1 式
- (15) 盗難防止装置（待機時に走行が不能となる装置） 1 式
- (16) LED 路肩灯（純正品・スイッチ付） 1 式
- (17) ヘッドライト（純正 LED 球とする） 1 式
- (18) フロントコーナーセンサー（フロントバンパー左右） 1 式
- (19) ドライブレコーダー（フロント・リヤ） 1 式
- ※ 品番等については別途指示する。リヤはドライブレコーダーに合わせてフィルムをカットすること。

4 車両付属品（補助対象外）

- (1) 自動車標準工具（ジャッキ、ホイールレンチ、スパナ×2、プライヤー、差替ドライバー含む） 1 式
- (2) 床マット（運転席・助手席） 1 式
- (3) 安全停止表示板（ハードケース付） 1 個
- (4) 牽引用ロープ（橋研社製ソフトカーロープ H-10A） 1 本
- (5) 車輪止（丸和製 ゴム 中型） 2 個
- (6) 車両キー（標準装備キー 2 本・電磁式発信機 3 本含む＋予備 2）計 7 本
- (7) ブースターケーブル（12V100A・5m 程度） 1 本
- (8) 非常用信号灯（小林総研・KS-100E3） 1 個
- (9) 訓練旗・パトロール旗（40 cm×35 cm 程度） 各 1 本
- (10) 運転席および助手席破れ防止用シートカバー（1 式装着納車） 各 3 式
- (11) 救助用カラビナ（ワンツースリー製 7.5 回転 W ストッパーステンレス品番 KA102W-S） 3 個
- (12) H I D ライト（STREAMLIGHT 社製 ファイヤーバールカンスーパー LED モデル） 1 式
- (13) 防爆ライト（STREAMLIGHT 社製 ファイヤーバールカンスーパー LED モデル） 各 2 式
- (14) 救命浮環（マリンポーチ） 1 個
- (15) 救命ロープ（8 mm×50m、オレンジ色フローティング） 1 本

- (16) ハイブリッド工具（EC 工具・簡易セット） 1 式
- (17) 夜行チョッキ（EMS Pro ベスト若しくは同等品とする） 3 着
- (18) ゴミ箱（形状および設置場所は別途指示する） 1 個
- (19) 自動車用 ABC 粉末消火器 4 型・蓄圧式（初田製作所製） 1 個
- (20) ゴムタイヤチェーン（ネット製【例】イエッティー） 1 式

5 外装部

(1) 塗装

車体の塗装色は、メーカー標準塗装の白とする。

(2) 当組合名・組合マーク・無線呼び出し名称等の記入

ア 記入文字は丸ゴシック体・ステッカー式とする。

記入文字	色	記入位置	文字の大きさ（mm）縦×横×長さ
枚方寝屋川消防本部	黒	車体後部両側面 （左から右方向へ記入）	縦 110mm×横 110mm 程度 （長さは別途調整）
組合マーク（支給品）	－	左右ドア部	－
〇〇救急 1	黒	左右フロントドア下部 およびリヤナンバープレート下部（読み書き、左右とも左から右へ記入）	縦 80mm×横 80mm （長さは別途調整）
枚方寝屋川消防本部	黒	リヤウィンドウ中央下部	縦 80mm×横 80mm （長さは別途調整）
枚方寝屋川消防本部	黒	車体ボンネット助手席側 左から右方向へ記入	詳細については別途指示する。
枚方 寝屋川 救急	黒	対空表示 車両天井部	詳細については別途指示する。

イ 非常用救急車分のステッカーを上記書体、サイズで用意すること。（無線呼び出し名称、枚数については、別途指示する）

ウ ボディラインは、赤若しくはシルバーの反射シート（オラフォルオラライト製・AP-1000・ホワイト 1 2 または同等品）で車体に幅約 10mm（上側）・70mm（下側）の 2 本のライン（2 本の間隔は約 15mm）とする。（詳細については見本提示のうえ、別途指示する）

エ 当組合の指定するマーク、色及び文字を両サイドピラーから車両天井両サイド（読み書き、左から右へ記入）に貼りつける。（製品の決定及び詳細なサイズ、貼りつけ位置、デザイン等については見本提示のうえ、別途指示する）別添のデザイン図参考「OSAKA H. N. F. D.」

オ 必要に応じて車両側面に指定するデザインのステッカーを貼付すること。なお、この場合当組合が提示する原案デザインをもとに仕上げデータを提示し協議のうえ決定すること。

カ 排気管は傷病者室への排気ガス流入を防止する構造にすること。

(3) 消防マーク

フロントパネル中央部に 150mm 程度の大きさで、金属メッキ仕上げのものを取り付けること。

(4) ポールスリーブ（旗立てパイプ）

固定ハンドル付（パイプ内径は旗の柄に適合するもの）の製品を指定する位置に取り付けること。長さは別途指示する。

(5) 大型リヤステップ

アルミ縞板及び滑り止めテープを貼付したものを取り付けること。

(6) 窓

ア 左スライドドアに開閉式の窓を設ける。

イ バックドアの窓は熱線ヒーター付とし、全面曇りフィルムとすること。

ウ 傷病者室窓の左サイド一部クリアの曇りフィルム、右サイドは白色フィルムを貼付けとする。

(7) レスキューツール

以下の資機材を取り付けること。

ア バール

イ 万能オノ

ウ シートベルトカッター

エ ガラスカッター

オ ボルトクリッパー

(8) 車両両側面にウインカー連動で点滅するランプを取り付けること。

(9) 塗装等保護のため、フロントドア、左スライドドア各ステップにはアルミ縞板及び滑り止めテープを貼付し、各ステップ立ち面及びリヤバンパーにはアルミ縞板製又はステンレス製のプロテクターを取り付けること。

6 内装部

(1) 運転室と傷病者室は移動等が容易に出来るよう開放式とすること。

(2) 傷病者室床面は清掃が容易なウオッシュャブルフローアとすること。

(3) 内張りの必要箇所に、電気配線等の点検口を設けること。

(4) 傷病者室右側ルーフサイドまたはサイドラックに収納庫を設け、アシストグリップを前後に設けること。

(5) 上記傷病者室前部シートは、ハイバックシートとすること。またヘッドパットを設けること。

(6) 助手席から傷病者室内を確認するためのミラーを取り付けること。また車両後方確認用のデジタルインナーミラーを設置できる車種は備え付けること。

(7) ストレッチャー積載架台

ア 傷病者室後部中央付近に設け、メインストレッチャーの収納及び取り出しが容易なものとすること。

イ メインストレッチャーを確実に固定し、かつ容易に解除できる構造の装置を設けること。

ウ 架台は、無電源式とし車体からメインストレッチャーに伝わる振動及び車体前後方向の加速度を減衰させる構造とし、左右にスライドできるものであること。なお、免振ゴム式装置の場合は、強化ショックアブソーバー及びフロント強化スタビライザー、リアスタビライザー追加、リーフスプリング交換等により車両本体で振動を減衰する構造であること。

エ 標準付属の搬入ガイド及び落下防止を取り付けるものとする。

(8) 資機材収納庫等

- ア 資機材収納庫等の構造は、堅牢でかつ走行中の振動による異音の発生が極力少ないものとする。
 - イ 外面及び内面には危害を生じ、または、収容物に損傷を与える恐れのある突起等がないこと。
 - ウ 各扉及び引出しには必要により走行中の振動または収容物の移動により開放しない固定装置を設けること。
 - エ 内面には、必要に応じて積載品の緩衝材を設けること。
 - オ 傷病者左ルーフサイド前後またはオーバーヘッド部に収納庫を設けること。
 - カ 傷病者室内に汚物入れを設けること。（詳細は別途指示）
 - キ 大型資機材収納庫をルーフサイドまたはサイドラックに設けること。（詳細は別途指示）
 - ク 傷病者室天井部にルーフネットを3ヶ所設けること。
 - ケ 傷病者室にホワイトボードを取り付けること。
 - コ 傷病者室大型資機材収納庫扉にネットシェルフを取り付けること。
 - サ 上記大型資機材収納庫内に、取り外し可能な仕切り板を設けること（3段）。
 - シ ルーフサイドの収納庫にはすべて扉を取り付け、収納庫の形状により仕切り板もしくは棚を設けること又脱落防止を施すこと。（詳細は別途指示）
 - ス 傷病者室右側後部には、2段式の棚を設けること。（詳細は別途指示）
 - セ ボンベ庫上部に、3段の収納庫を設けること。
 - ソ 傷病者室の前向きシート下部に予備ボンベ（2.0又は2.8リットルボンベ）を収納できるスペースを設けること。位置については別途指示する。
- (9) 標準装備で手洗い装置がある場合は、その部分を指定する収納庫に変更し、内部に棚板を追加すること。また、その部分に自動心臓マッサージ器（LUCAS 3）を設置する指定がある場合は充電できるようにすること。
- (10) リヤヒーター
ヒータースイッチ位置及びヒーター吹き出し口は、各種取り付け品との干渉に十分注意し、支障のあるときはこれを変更すること。
- (11) 地図入れ
運転席付近及び患者室に地図入れまたは書類入れを設けること。設置位置については当組合と協議すること。
- (12) ネットシェルフ
運転席、助手席天井部にネットシェルフを取り付けること。（ネットシェルフ下部は脱落防止用の金属製ステー止めとする）
- (13) AC 外部入力マグネット式コンセントを車両後部リヤバンパー左右いずれかまたはボディ右側面に設けること。また電源コードの長さは10mとする。なお、外部電源入力時に車内の蛍光灯を使用できるようにすること。
- (14) 温冷蔵庫
温冷蔵庫を患者室の活動の妨げにならない場所に取り付けること。また取り外し可能にすること。
- (15) 前記各種コンセントにはそれぞれ銘板を設けること。
- (16) 時計および温度計湿度計
傷病者室用アナログ式時計および、温度計湿度計を取り付けること。
- (17) コードフック

キャビネットおよび運転席後部ボード等の位置に 10 箇所程度コードフック（C 型バネ付フック）を設けること。

(18) 担架収納庫

ハイテックバックボード（ファerno製モデル 2010）とスクープストレッチャー（ファerno製モデル 65EXL）を取り出し易い構造で安全に固定できる箇所に設けること。
なお、収納時に各担架が患者室に露出する場合は、ステンレス製のカバーを取り付けること。

(19) 大型のアシストグリップを傷病者室右側（別途指示）に取り付けること。

(20) ティッシュボックスホルダーを傷病者室右側に 5 箇所取り付けること。

(21) バックドア開口部に大型アシストグリップまたは手摺棒を取り付けること。

(22) バックドアを容易に閉鎖できるようにストラップ等を取り付けること。

(23) サイドラックに可搬式吸引器を取り付けられる構造とすること。

(24) 酸素配管は、酸素ボンベ収納庫から上記取り付け位置まで、主として内装板等の内側に施工し車内に露出しない構造とするが、内装板・外装板の区別のない箇所についてはこれを除く。また、減圧弁、加湿流量計等の固定装置が取り付け可能な状態とすること。

(25) 配管の接続口等には適度の余裕があること。

(26) 酸素収納庫の蓋上部を酸素ボンベバルブが容易に開閉できるようカッティングしておくこと。

(27) 酸素マスク用の収納トレイを取り付けること。

(28) ウェルパス（手動式手指消毒器）用の収納を取り付けること。

7 電装関係

(1) 赤色点滅灯

ア 大型赤色点滅灯の設置位置は屋根上前部及び後部とし、設置個数は各々 1 もしくは 2 とする。

イ フロントバンパー左右にルーフ赤色点滅灯と連動させること。

ウ 散光方式は LED 式とする。

エ フロントおよびリヤの大型散光式警光灯は緊急走行中にウー音スイッチや合成音声スイッチ、また、パーキングブレーキと連動するなど活動状況に応じて発光パターンを自動的に変化すること。

(2) 停止表示灯

ア LED 製でバックドア底部および左右・右棚の後部に取り付けること。

イ バックドア開放時に後方および左右から視認できるもので、電源は赤色点滅灯と連動させ、開放時のみ点滅するものとする。

(3) ルーフサイドの前後左右に 4 灯バックドア上部中央部に LED 作業灯を取り付け、運転席と助手席から容易に操作できるものとする。

(4) フレキシブルマイクロホン

大阪サイレン用 UD-200 上記マイクロホンを運転席右前上部に取り付け、スイッチ及びボリュームを運転席より操作しやすい位置に設け、サイレンアンプまで配線を行うこと。

(5) 電流計・電圧計

照明付で運転席より見やすい位置に取り付けること。なお、電源系統が 2 系統以上からなる場合は、それぞれに電源系統を確認できるよう対策を講ずること。

- と。
- (6) オルタネータ
12V-130Ah 以上の製品を取り付けること。
 - (7) 傷病者室内灯
傷病者室内には、主照明並びにスポットライト等を併設し、適切な光度を有すること。なお、主照明は調光機能付の LED 照明とする。
 - (8) LED マップランプ
助手席にフレキシブル式の LED マップランプを設けること。
 - (9) 傷病者室内換気扇
ア 傷病者室の天井には電動型換気扇を取り付け、フィルターを設けること。
イ 室内側の換気扇周辺はできる限り突出部を少なくすること。
 - (10) 特装関係のヒューズボックス
1 箇所に集中させ、点検等が容易に行える位置に設けること。
 - (11) 傷病者室電装品のスイッチパネルは 1 箇所に集中させ、室内蛍光灯スイッチは隊員席から容易に操作できる位置に取り付けること。
 - (12) 電子サイレン (ACC と連動) 1 式 (標準付属専用マイク・予備と合わせて 2 個含む) (補助対象)
ア 大阪サイレン製 OPS-D151Q をフロントパネル内に取り付ける (スピーカーは 50W 型とする)
イ リモートサイレンスイッチを運転席の操作し易い位置に銘板付きで設ける。
(電子サイレン音スイッチは押す毎に入→切→入の繰り返し)
ウ 出動予告放送用のスイッチ (内部照明・銘板付き) をフロントパネルの操作し易い位置に設けること。(詳細については別途指示)
エ 全ての内蔵音声合成の声色は可能な限り男性とする。「右折」「左折」は、電子サイレン吹鳴時と同時にスピーカー拡声すること。音声合成キャンセルスイッチ (スイッチは切で音声切断、内部照明・銘板付き) を設けること。(詳細については別途指示) ※照明はスイッチ本体に内蔵 (出動予告放送用スイッチを除く)
オ 後退広報は専用スピーカーより放送し、音声合成キャンセルスイッチにより解除できること。
カ 助手席にリモートサイレンのフットスイッチを設けること。(詳細については別途指示) ※その他標準搭載メッセージについては No. 123, 400, 402, 421 の 4 種類とする。
 - (13) コンセント
ア 2 口 6 か所取り付けること (アース付)。
イ AC コンセントが使用できるよう AC 自動切り替え機能を備えること。
ウ AC100V コンセント (縦型収納庫後面と右窓下) を取り付けること。

8 無線関係及びその他の配線等

- (1) 無線機及び空中線共用器
支給品の無線機マウントをセンターコンソール付近の操作のし易い位置に取り付けること。
- (2) ダイバーシティーアンテナ
ア アンテナ (基台、コネクタ含む) は支給品を使用する。(2 本)

- イ 取り付け位置は天井中央部付近とし赤色警光灯より 500 mm程度離し、1,200mm 以上の間隔で取り付け防水に十分留意すること。
- (3) アンテナケーブル
 - ア アンテナケーブルは支給品を使用すること。
 - イ 引込みは天井内張り内とし、無線機取り付け位置付近まで配線しまとめておくこと。(ケーブルのN型コネクター設置側をアンテナ側として引込む)
- (4) 電源コード
 - ア 電源はバッテリーより直取りとし、エンジンキーの ACC の位置で作動するように 10A 用リレー及び付近に 10A 用ノイズフィルターを取り付け、室内無線機の取り付け位置まで配線を行うこと。
 - イ 全自動電子バッテリー管理器(バッテリー充電)を取り付けること。
- (5) 分離制御器(無線子機)用ケーブル
 - 支給品の分離制御器(無線子機)用ケーブルを分離制御器取り付け位置から運転室内の指示する位置まで配線すること。(詳細は別途指示)
- (6) ボンディング工事
 - 無線並びに伝送装置等に電波障害をおこさないようにボンディング等の工事を行うこと。
 - ア アースボンディング
 - フロントドア、バックドア等金属部分で溶接によらずに接続された箇所に取り付けること。
 - イ ノイズフィルター
 - 電源回路に特殊雑音防止フィルターを取り付けること。
 - ウ コンデンサー
 - 電気回路の接続を繰り返す所に消弧用コンデンサーを取り付けること。
- (7) エンジンスタータ・カット
 - エンジンスタータ・カット(警報・インジゲーター付)を装着すること。
- (8) 緊急車両存在通知発信システム
 - 緊急車両存在通知発信システムがとりつけできる車両はとりつけること。
- 9 消防ナビゲーションシステム関係(詳細は別途指示)
 - (1) 別途指定する位置にナビゲーションの車載端末装置等を固定するためのボックスを設け、メンテナンスホールは出来る限り大きくし、点検口は容易に取り外しができること。(収納する物品は車載端末装置、ジャイロセンサー、モバイルアーク等)
 - (2) 支給品のナビゲーション用液晶ディスプレイ、ブラケットをセンターコンソール等に取り付けること。
 - (3) ナビゲーションシステム用の+B、-アース、IG、ACC、スピードパルスセンサバックの6回路銘板付き端子を取り出し、指示する位置まで、配線すること。
- 10 取付品及び附属品
 - 下記の資機材を備えること。なお、固定金具等を必要とする場合はそれぞれ設けること。
 - (1) メインストレッチャー
 - ファerno エクスチェンジストレッチャー 下記の構成1式

- ア モデル 4080-S トランスポーターレッド J
- イ モデル 4155 ストレッチャー J
- ウ 標準付属マットレス（黒色）
- エ 標準付属サイドアーム
- オ サイドアームプレート
- カ サイドアームロックレバー
- キ 専用ベルト×4本
- ク ガートル架キット（ガートル架、マウント、サイドアームカバー両側、六角レンチ）
- ケ ストレッチャー用かまぼこ型枕 黒（固定用ベルト黒 付）
- コ ドーナツ枕 中
- サ 枕 TC902 または Soften ピロー（黒ベルト付き）
- シ 防振ベッドを締め付ける六角レンチ 1 本（サイズは別途指示する）
- (2) 輸液用資機材
 - ア 輸液ビンホルダー 1 式
 - ※ 傷病者室天井後部に 2 か所、各 2 本用のホルダを設けること。（別途指示）
 - イ 輸液ポンプ用電源とマウントベースの設置
 - ※ マウントベースおよび専用電源 AC100V を設置すること。
- (3) 処置用トレイ
 - ストレッチャー頭側付近に収納可能な処置用のトレイを設置すること
- (4) 次に掲げる医療機器の固定が可能な構造とすること。なお医療機器は高度救命処置用資機材納入業者が納入し、その業者が備え付けするものとする。
 - ア 人工呼吸器（コーケンメディカル製 ANSWER または同等品） 1 式
 - ※ 別途指示する傷病者室右側面キャビネット中央部のラック下段に固定金具を用いて取り付け、背部に専用電源コンセントを設置すること。また、駆動ホースを容易に接続可能な取り付けとする。また回路保定用のベンチクリップ 1 個を取り付けすること。
 - イ 自動体外式除細動器
 - 以下の機器を別途指示する位置に取り付けること。
 - (ア) 旭化成 ZOLL メディカル社製 X シリーズ 1 式
 - ※ 専用固定装置及び専用 AC 電源を設置すること
 - (イ) 旭化成 ZOLL メディカル社製 AEDPro 1 式
 - ウ 可搬式吸引器（レールダルサクシオンユニット LSU4000） 1 式
 - エ 加湿流量計（オキシパック OX-ⅢS） 1 式
 - オ バクテクター03 TM-11MFE（BT-03）（株式会社テコサービス） 1 式
 - カ アネロイド式ウォール血圧計 7670-01 （ウェルチアレン） 1 式
 - キ 自動心臓マッサージ器（日本ストライカー製 LUCAS 3）
 - ※ 別途指示する位置に取り付けし、充電できるようにすること。
 - ク 静脈可視化装置 NVS500（クランプスタンド NVS500-SP 2）
 - ※ クランプで固定できる構造とすること。

第 3 章 補則

- 1 救急車の納入は新規登録後、各部清掃のうえ納入するものとする。

- 2 受注者は救急車納入後、組合の指示により各操作の取り扱い要領について専門係員を派遣し指導を行うものとする。
- 3 自動車損害賠償責任保険料及び自動車重量税を除く全ての経費は受注者の負担とする。
- 4 納入時における燃料は満量とする。